

瀬戸内市太陽のまち創生有識者会議 意見要旨

日時 平成 29 年 7 月 28 日 (金)
午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
場所 瀬戸内市役所 2 階 大会議室

●平成 28 年度地方創生関連事業の効果検証について（意見交換・質疑応答）

1 地域産業創出総合対策事業（地方創生加速化交付金活用事業） 資料 1-1

【委員】

地域総合商社とは、今回作ったということか。

【産業振興課】

地域総合商社となる一般財団法人瀬戸内市振興公社という組織自体は、以前からあったもので、この公社の業務は今まで農作業の委託や農地の集積化など、特に水稻がメインの事業を行っている公社である。

【委員】

そこにそういう機能を持たせたということか。

【産業振興課】

そうです。

【委員】

商品開発や販売も。

【産業振興課】

そういうことです。

【委員】

農産物だけではなく。

【産業振興課】

得意とするのは、農産物ですけども今後は水産物も含まれる。

【委員】

そのようなことができる体制、人材は。

【産業振興課】

公社で全く新しい形でやっていくため、なかなかノウハウがないということで、今回の事業でそういったノウハウを構築させようと色々とアドバイスをしてもらっている。

【委員】

何人体制か。

【産業振興課】

職員は 2 名、その他アルバイトなど。どの事業についてもアドバイザー契約をしている方に指導や助言をもらいながら進めている。市のほうも連携して動くようにしている。

【委員】

外部委託（アドバイザー契約）はどちらに。

【産業振興課】

株式会社牛窓フードハピネスです。

【委員】

実際に開発された 17 商品は、具体的にはどのようなものか。

【産業振興課】

特産品を使用しているので、レモンやマッシュルームを使用したものが多い。ソース関係やドレッシング、パスタソースなどもある。その他お菓子やレモンのエキスをを使用した石鹸もある。

【委員】

売れ行きはどうか。

【産業振興課】

中には取り扱っている企業でもっと原材料がほしいといった声もある。これからいかに供給していくかが課題になる。

【委員】

販路開拓はこれからか。

【産業振興課】

市の特産品を使っている物になるため、ある程度ストーリー性を持たせて、販路開拓できればと思っている。

【委員】

開発した商品について、市民に見えてこないというか、売れるかどうかより先に市民が知っていることが大前提だと思う。市民の目に触れるホームページで紹介するとか、そのあたりは最低限必要ではないか。一部の人しか知らない状況になっているのでは。

【産業振興課】

これからの課題であると思っている。これからも新たな商品が出てくる中でどのように市のブランドとして、アピールしていくか工夫が必要だと思っている。例えば試食会など。

【委員】

まずは、岡山で売り出していくのか。

【産業振興課】

足元をすくわれないうちにも地元にも周知していきたい。

【委員】

資料の中に将来ビジョンの作成支援というのがあるが、ビジョンは昨年度完成した訳ではなく、まだ作成中か。

【産業振興課】

事業期間が平成 29 年 3 月 31 日までのため、将来ビジョンの案はできている。しかし公社の組織としての事業展開を図るには、事業計画に盛り込んでいくなどの作業があるため、現在進行中である。

【委員】

相当な金額を使われて色々なことをされていますが、K P I があと 4 年間分あるということは、これからも交付金が同じぐらいでいいのか。

【産業振興課】

交付金は平成 28 年度のみ。交付金を活用し得たノウハウ等で公社が今後事業を展開していく。

【委員】

やっていくことは縮小されるということか。

【産業振興課】

縮小しないよう地域商社として活動してもらいたいと考えている。

【委員】

空き家活用支援については何かやっているのか。もうオープンしているのか。

【産業振興課】

すでにオープンしている。3 軒のうち 1 軒は牛窓しおまち唐琴通りの旧歯科医院を活用したカフェと販売店。それから牛窓町鹿忍の旧西脇海水浴場の海の家を活用した店舗で、サーフィンなどのスポーツ用品の販売・レンタルを行う店舗とアウトドア用品のレンタルをしながらホットドッグ等の飲食物を販売している店舗がある。西脇海水浴場は昨年度閉鎖しているため、地域と協力イベントの開催なども行っています。

【委員】

どれも民間が行っているのか。

【産業振興課】

そうです。改修費用一部を助成している。

【委員】

資料 1-2 の空き家活用事業とは何が違うのか。

【産業振興課】

店舗と移住者用の住宅という違いがある。

【委員】

事業者は市内の方か。または移住者か。

【産業振興課】

元々牛窓に居た方と市内の他地域から来た方、市外から店舗ごと移転された方がいる。

【委員】

WEB・SNS 活用に向けたホームページ改修とあるが、具体的にはどのような改修を。

【産業振興課】

今までは市の認定商品を載せているだけのような状態だったが、フェイスブックやインスタグラムが活用できるようになっている。

【委員】

市のホームページとのリンクがわかりにくいので、わかりやすいように工夫してもらいたい。

【委員】

移住者数の K P I はどのように設定したのか。目標上は年間 1 人となっているが、す

に12人の実績があるようなので、県の移住者アンケートでは瀬戸内市は211人という数値も出ている。何をもち移住と捉えるかによって、数値が大きく変動する。

【産業振興課】

市総合戦略のKPIとして、移住者数というのがあるが、これは移住相談会参加者のうち移住をした人となっており、本事業はこの数値に合わせた形。県実施のアンケートの数値もあるが、どちらにしても正確な数値を把握するのは難しい。

【委員】

岡山は災害が少なく安全で気候も良いなど、移住に人気がある。人気があることをアピールするためにも、県とも連携しながらきちっとした集計をして、PRしていく必要があると思う。

2 仕事づくりを核とした移住・まちづくり連携事業（地方創生推進交付金活用事業）

資料1-2

【委員】

移住コンシェルジュというのは具体的に何をするのか。

【企画振興課】

地域の団体やコミュニティ協議会の方に活動をしていただいている。主には移住希望の方に、その地域案内や暮らし方であったり、空き家の紹介をしていただいたりしている。

【委員】

協働の空き家活用補助金というのは、移住コンシェルジュの方に交付するのであれば、実際に空き家を買われる方を支援するものではないということか。

【企画振興課】

市は移住コンシェルジュに補助金を交付し、移住コンシェルジュから所有者や購入者、借りる方に工事費の支援として支払う形。

【委員】

最終的には購入者や借りる方のインセンティブになるという意味合いか。

【企画振興課】

そうです。

【委員】

地域の方々の受入体制というのは非常に大切になってくると思う。地域おこし協力隊の方等も活発に活動されていますし、そういった様々な方の連携が大事になると思う。

【委員】

地域のポテンシャルを持ち続ける必要があり、アプローチした結果が出なかったときには、住民たちの意欲が落ちると思う。そのためには、その地域の特色を活かした魅力の発信が必要で、高齢者のセカンドライフが良いのか、仕事をもち家を建てるのが良いのか、自然の中で子どもを育てるのが良いのかなど、年齢層によっても目的は違う。それぞれの地域でどのような暮らしができるのか、たとえばワークショップを開くとかで、知ることや分析することが大切。住民の方がまずは地元の良さを再認識して、人を迎え入れるための持久力と持続力をつけていくことが必要だと思う。

【企画振興課】

どういった方々をターゲットにしていくかが重要になる。総合戦略を策定した段階では、そのあたりのリサーチが余りできていなかった。本事業の中でシビックプライド推進事業を行っており、その中で様々なアンケート調査を行っている。そこで見えてきたものの一つとして、20代、30代女性の方々にこのまちを選んでもらうところに焦点を当てていけないといけないというのがある。それに関連した事業に予算化の時点からメリハリをつけてやっていかなければならない。

本事業の移住プロモーション動画は、子ども向けの映画上映に合わせて、放映している。

【委員】

自然派や健康志向など新しい発想をもっている若い世代もいる。若い世代が魅力を感じる取り組みが必要。本事業で作成している市の新しいロゴマークについて、「まっすぐ、しあわせ。」というメッセージをもっと目立つように、せっかくお金をかけて作成しているので、市の職員が積極的に利用するとか、もっと活用していただきたい。良い言葉だと思うし、子どもたちも知っていたりする。

【企画振興課】

ロゴマークについて、今年度は旗やステッカーを作成する予定としており、積極的に活用していきたいと考えている。

【委員】

今後は例えば、電車の側面に掲載して、「まっすぐ、しあわせ。」をPRし、瀬戸内市のことを知ってもらい、子育て世代にアピールしていただくとか。

【委員】

郷土愛の醸成のために何かを作るということよりも、作った過程の方が大事だと思う。地域学というのがありますが、子どもたちが長い時間をかけて地域のことを考えると、地域の人に接したり、お世話になる中で郷土愛が生まれてくるのではないかと思う。本事業の中で高校生の企業見学をされていますが、一度企業に行くぐらいでは、中々効果があるとは言えないのではないか。

【企画振興課】

呂久高校の企業見学については、県の補助事業とも連携し、2～3年計画で取り組んでいる事業の一つとして行っている状況。

【委員】

地域学は、小さい子の方が効果はあると思う。いかに地域の方と接したり、地域のことを考える機会を設けるか。一度企業を見て就職してもらおうというのも難しい。地域との触れ合いが大事で、あの人にお世話になって、あの人が出来てくれて感謝して、あの人のために何かしなければと思うのではないか。教育と地域活性化を絡めて考えていくことが大事。

【委員】

子どもが瀬戸内市にたくさんある良いところを知らないことが多い、瀬戸内市独自の学校の教材があれば良いのではないかと思う。

【企画振興課】

今でも教育委員会では社会科の副読本として、「ぼくのわたしの瀬戸内市」というものを作成している。それに追加して、シビックプライド推進事業としても社会科の授業で活用できる副教材の作成を行う予定である。

【委員】

K P I の中の市民一人当たりの税収額とありますが、これはどういったものですか。

【企画振興課】

前年度の収入等を基に課税される個人市民税を対象にしている。

【委員】

例えば単純に子どもが増えると下がるということか。

【企画振興課】

扶養の人数が増えると、下がることになる。事業の主旨として、仕事づくりを主にしているため、所得増を目的に設定したもの。K P I に設定しているものの本事業が増減に起因しているかどうか判断は困難。

【委員】

作成した動画は現在も見えるのか。

【企画振興課】

YouTube で配信している。市のホームページからも見える。

【委員】

今何本あるのか。

【企画振興課】

動画の種類自体は1本だが、1分もの3分ものなどを用意している。全部で11パターン。

●瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略におけるK P I の状況について 資料2

【委員】

市内関連施設観光客入込数について、基準値の10万人に比べると平成28年度の実績がかなり少ないが。

【観光課】

市内の博物館、美術館、資料館を合計した数値になっており、それぞれの企画展等がヒットするかどうかにより大きく左右されるという現状。例えばこの集計に入っていない道の駅黒井山グリーンパークだけでも平成28年度は88万人という数値が出ており、正確な数値の把握が困難である。宿泊数の数値であれば比較的正確な数値の把握が可能。

【委員】

基準値に比べ悪化している数値が何項目かあるが、要因の検証はしているのか。要因がわからないと次の打つ手が出てこないと思う。

【企画振興課】

2年に一度、市民2千人を対象に「市民まちづくり意識調査」を行っており、その結果を基に総合戦略の中の取組みにつなげていきたいと考えている。

数値としては観光に対してあまり力が入っていなかったのが現状である。優先順位と

して、それ以外の分野に力を入れていたところがあるので、今年度観光課も新設され、観光分野にも力を入れていく。

【観光課】

市民は約3万8千人いますが、観光に従事している方は牛窓が中心で、あまり多くないという現状がある。実際岡山市のベッタタウンでもあるので、観光地であるという認識も低い。また、全国的に若い男性にアンケートを取ると、観光に行きたくないという回答が一番になるような時代になってきている。

今後は地域の学習という面も含めて旅行に行ったら色々な経験ができて、地域の歴史や文化にふれ、心が豊かになるといったような取組みを少しずつ積み重ねる必要がある。

【委員】

婚活・結婚支援イベント参加者数は累計という表現ですが、今後目標の200人が達成できるのか。

【企画振興課】

昨年度は縁結びサポーターさんを養成する講座や研修を行い、6人のサポーター登録を行っている。イベントをするのは簡単ですが、効果の出る取組みでなければ意味がないので、そのあたりの意見を集約しながら取組んでいきたい。

【委員】

県が縁結びネットというマッチングシステムを開始している。愛媛県が先進的にやっている取組みで、今の若者に合ったものになっているので、県との連携も非常に有効だと思う。

【企画振興課】

県から情報提供を受けており、今後、市としても様々な場でPRしていきたい。市独自の取組みとしては、結婚相談所サンマリエと連携協定を交わし、市民限定の特別プランを用意するなどしている。

●地方創生推進交付金実施計画書の変更について **資料3**

【企画振興課】

元々「農業振興を起点とした～」という事業名であったものを「仕事づくりを核とした～」というものに変更している。農業を前面に出していても農地の問題や受け入れ体制の問題もあって、中々難しいのが現状である。そのため、副業としてのテレワークの推進や空き家の整備などの移住環境の方に力を入れていくという内容に変更し、事業内容の変更に伴いKPIの変更も行っている。

※特に意見なく、変更了承とする。

●その他地方創生関連の取組紹介

【企画振興課】

- ・地方創生拠点整備事業の説明（旧牛窓診療所イノベーション事業）
- ・企業版ふるさと納税の説明（JR駅前整備事業、夢二ふるさと芸術交流プロジェクト）